

くにびきエコクラブ 活動報告

開催日時：2025年(令和7年)3月6日(木)

「東日本大震災発災」を契機にはじめた 「もったいない運動」を行いました

くにびきエコクラブ(会員18名)は、東日本大震災発災14年目を前に3月6日(木) 早朝(7:30~8:30) JR 松江駅北口・南口広場で、「もったいない“の心で 節電・石油消費抑制・食べ物を大切に・ごみ減らしなどに努めよう」と訴える街頭啓発活動を行いました。

この活動は、今回で14回目となりました。会員7名が参加し、循環型社会の仕組みとそれに向けた具体的な生活改善策などを絵入りで説明したチラシ(約400枚)を市民に配布し、実践を呼びかけました。

報告：

14年前の東日本大震災直後の非常時には、全国で節電や被災地への食料支援が呼びかけられ、その危機感を契機に大量生産・大量消費社会への反省や循環型社会への移行の議論が高まりました。しかし、年月とともにその記憶は薄れ、当時の機運も衰えつつあります。

当クラブでは、毎年この時期に「もったいない運動」を行い、被災地の現状や「令和6年能登半島地震」を思い起こしてもらい、「もったいないの心」で、限りある資源を大切にすることを意識を高めることを目的としています。

さらに、被災地の復興支援と脱炭素社会(カーボンニュートラル)へ向けた取り組みの輪が広がることを願っています。

(記：北垣 幸久)



「もったいない運動」参加者(その1)7名(内1名は撮影者)



チラシ配布の様子



「もったいない運動」参加者(その2)7名(内1名は撮影者)